

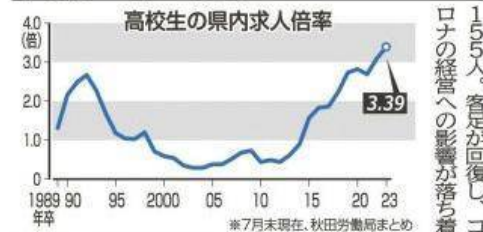
# 高校生求人倍率 3.39倍

## 県内7月末、過去最高

秋田労働局は1日、来春卒業予定の高校生に対する県内求人倍率（7月末現在）を3.39倍と発表した。統計を開始した1988年度以降、同時期としては過去最高となった。同局は「求人数が新型コロナウイルス前の水準まで回復した一方、生徒の減少は続いている」としている。

7月末現在の県内求人倍率は4368人で、前年同期を7.0%（2886人）上回った。コロナ禍前の2019年と比較すると1.1%（47人）増えた。医療・福祉を除き、主な産業全てで昨年より増加している。

産業別にみると、慢性的な人手不足が続く建設業は5.7%（56人）増の1047人となった。宿泊・飲食サービス業は18.3%（24人）増の155人。客足が回復し、コロナの経営への影響が落ち着いてきている事業所が採用力を入れている。



医療・福祉は11.5%（57人）減の440人。病院や福祉施設の事務や調理士の募集が減った。

就職を希望する生徒の数は前年比2.9%（49人）減の1643人（5月15日時点）。このうち県内就職希望者は1287人。就職を希望する生徒全体に占める割合は78.3%で過去最高となっている。

高校生への選考と内定は16日から始まる。

（加藤龍太郎）